

えきまえじょうかく
阪急宝塚線・蛍池駅



移築された麻田陣屋の長屋門

あさだじんや
麻田陣屋

大阪市のほぼ真中に大阪城は位置しています。大坂城は、近世日本経済の中心を押える幕府直轄の城郭であったことはいうまでもありません。その存在感にもよるのでしょうか、大阪府下にほかにどんな近世城郭があったかということになると、意外と知られていないものが少なくないように感じられます。東国に比べて生産性の高い摂河泉地域ではまとまった規模の大名領がないこともその遠因でしょう。いろいろな所領が錯綜して設定されたこの地域を学術用語として“非領国”と呼ぶことがあります。まとまった規模の大きな大名領がない代わりに、天領のほか小さな大名領がいくつか設定されるということが特徴といえるでしょう。ここで紹介する麻田陣屋（豊中市）も、そうした“非領国”地域で1万石の領地を与えられた小大名青木氏14代の本拠となったところです。

麻田陣屋は、大阪空港の玄関口である阪急宝塚線蛍池（はたるがいけ）駅のすぐ西に位置していた陣屋です。大阪モノレールが蛍池駅から大阪空港駅に進入するために高架線を大きくカーブするとき、車窓からその故地を俯瞰することができますが、陣屋の痕跡らしいものは市街地の中に消えてしまっていることは不可能になっています。蛍池駅前には大きな再開発ビルが出来ているので、その建設に伴う発掘調査でなんらかの成果が出ているとみられますが、いまのところ未見です。

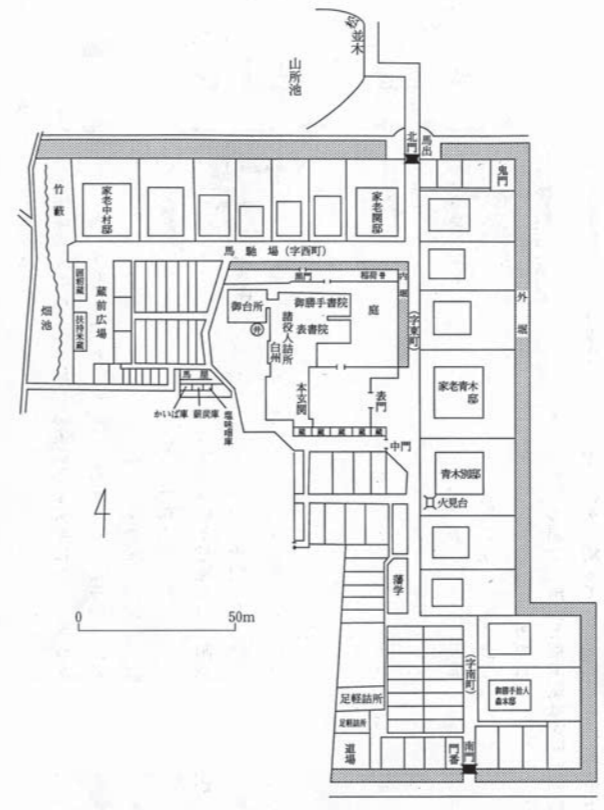
この陣屋がどのような構造であったかを知るには豊中市教育委員会所蔵の「摂州麻田藩御陣屋図」が非常に参考となります。この絵図によると、陣屋の主体部は外堀で囲われ、中央に御殿が位置していました（次頁の模式図を参照。「摂州麻田藩御陣屋図」とは若干異なる。出典は『新修池田市史』第2巻）。外堀は東から南東にかけては欠落しており、全体を圍繞していたわけではありません。御殿を囲む内堀も東と北側だけでカギ状を呈し、あとは長屋や土堀になっています。また、この絵図をみるかぎり、外堀には土塁の存在を窺わせる描写はなく、陣屋の正面（北側）となる場所には外堀に沿って竹矢来が描かれているにすぎません。一見半端に見える堀のあり方は、麻田周辺の地形に規定されているようです。陣屋は河岸段丘が舌状に張出したところにあり、段丘崖を防御線としたことに関係があるようです。つまり、段丘に入り組んだ谷やその谷を利用して造られた溜池をうまく防御線にし、刀根山方面から続く丘陵部に堀を掘削しているのです（中嶋聡氏のご教示）。



陣屋跡の石碑。西口再開発ビルのすぐ裏

麻田村に陣屋が設置された理由について前掲『新修池田市史』では、同村の大百姓岩田忠左衛門と祝正治が土地を献上したためという逸話を紹介しています。麻田村は西国街道に近いことによる（池田市立歴史民俗資料館編『江戸時代のまち』2003年）、という理由もあるようです。もし交通利便性を第一義的に考慮した配置であるなら、石橋村や池田村（ともに池田市）にあったほうが断然有利です。麻田村では領分の南に偏在することになります。青木氏の上方における役割を考えると、大坂に近いことが大切ともいえますから、その点を考慮しての選地かもしれません。あるいは、前代以来、ある程度町場が形成されていた池田村や石橋村に陣屋を新たに設けるには、新参者の青木氏には大名権力をもってしても村内に入り込み、陣屋用地を確保することができなかったのかもしれない（前出中嶋氏）。そんな時に麻田村の大百姓が土地の無償提供を申し出たとしたら、青木氏にとっては渡りに船だったことでしょうし、陣屋町の一角を担うことになる麻田村にとっても何らかのメリットがあったということなのでしょう。以上は推測ですが、池田ではなく、麻田に陣屋が置かれた訳は何だったのか、青木氏と百姓の力関係など、少し興味を引くところではあります。

現在、陣屋跡には石碑だけで、陣屋の痕跡をうかがわせるものは皆無です。蛍池駅からモノレールで1駅、柴原駅の近くに陣屋の長屋門が移築されています。出格子の武者窓のついた小ぶりながら風格のある建物です。屋根には青木家の洲浜紋の付いた軒丸瓦が載っています。残念ながら陣屋のどこに所在した門なのかはわかっていません。



幕末の麻田陣屋模式図



報恩寺に移された玄関



虹梁にある富士山の墓股。

また、そこから2000mほど北東に行くと、豊中市春日町の報恩寺に玄関が移築されて残っています。解説板には表玄関とありますから、御殿の玄関ということになります。一部の瓦には洲浜紋が付いています。この玄関の虹梁中央部には富士山をかたどった墓股があります。青木家の替紋は富士山に霞紋なので、それに由来する装飾とみられます。このほかに麻田陣屋に関わる遺構がいくつかあるようですが、それらについては、上田一『摂津麻田陣屋』日本古城友の会、1984年に紹介されています。

ここで紹介したエリアを徘徊するには、阪急電鉄のホームページ掲載の沿線案内が便利です。蛍池駅前には地図が掲示されていますが、史跡案内のようなものはとくにありませんでした（見落としの可能性もある）。豊中駅を起点にバスを利用する手もありますが、大阪モノレール柴原駅構内には、紙札に「¥100」と書かれた貸自転車と並んでいます。



"Shiro Fumi" No.59 The News of Himeji Center for Research into Castles and Fortifications.